

### 第3学年国語科学習指導案

在籍 男子21名 女子18名

1 単元名 「いにしへの心と語らう」

2 指導観

○ 本学級の生徒は、全体的に明るくまじめで、学習に対して意欲的に取り組む生徒が多い。特に、自分の意見を書く場面では、既習の内容を踏まえた記述を行うことができる生徒が多い。修学旅行後のリーフレット作りでは様々な文体を使い、レイアウトを決め、2年生に修学旅行の楽しみ方を教えることができる素晴らしいものとなった。

一年生の時には「竹取物語」、二年生の時には「平家物語」を学習しており、それらの学習を通して歴史的仮名遣いや古語単語を学んでいる。しかし、古典に関して自分で調べたり、自分で意見や考えを持ち交流したりという活動はあまり行っていないため、古典に関する自分で獲得した知識は少なく、自分の意見や考えを発表することを苦手としている生徒も多い。また、自分が知りたい内容を図書館を利用して明らかにしていく活動もまだ定着していない。

〈調査結果からみる課題〉

平成28年度全国学力・学習状況調査【設問】

調査問題	設問番号	設問の概要	平均正答率 (本校)
国語A	9 七1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。	89.3%
国語B	2 三	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える。	53.7%

上記の結果から、古典に関する知識として、歴史的仮名遣いから現代仮名遣いに直すことはほとんどの生徒ができており、1・2年生で学習したことが定着していることがわかる。古典に関する知識事項についてはある程度の理解が認められるが、自分で課題を見つけて調べることに 대해서는 苦手意識を持つ生徒が多い。

○ 本単元では、中学校の古典学習の総仕上げとして、日本の伝統的な言語文化の中心を担ってきた和歌と、その流れから生まれた俳諧を取り上げている。歴史的仮名遣いや、古語単語の確認など基本的なことを学習するのはもちろん、作品に関連する歴史的背景を自分で調べ、調べたことを互いに交流していくことで、和歌や俳諧の世界をより深く享受できるような授業を目指していく。

まず、古今和歌集「仮名序」の冒頭を音読することで、古文の言葉の響きを味あわせ、「和歌」というものが昔の人々にとってどのようなものであったかを考えさせる。次に、「三大和歌集」から選出された和歌を読み、歴史的仮名遣いや、現代語訳などを確認させる。さらに、その中から一首を選び鑑賞文を書かせる。和歌の読み取りについては比較的学力の高い生徒でも苦手とする傾向が強いため、読解の手助けのため、図書室を利用した調べ学習を行い、和歌の意味や背景について自ら考えさせる機会を設けていく。調べ学習によって得た手がかりをもとに鑑賞文を書き、最後に小グループで鑑賞文の読み合いを行い、和歌や俳諧の面白さに気づかせたい。

- 学習指導要領では[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の(1)ア、伝統的な言語文化に関する事項で、小学校からの系統性を踏まえ、中学校では「一層古典に親しませるとともに、我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり、深めたりすることを重視して指導する。」と述べている。伝統的な言語文化を通して、我が国の文化や伝統を尊重する態度を身に付けたり、昔の人の物の見方や思いに触れて感性を磨いたり視野を広げたりと、古典の学習から得られるものは大きい。

本教材は、三大和歌集である『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』から十五首の短歌が取り上げられている。成立の時代はそれぞれ奈良時代後期、平安時代の初期、そして鎌倉時代の初期で、三つの時代を背景に壮大な時間の中の和歌を味わうこととなる。「三大和歌集」の特色と共に、和歌に描かれた情景や古人の心情を読み取り、和歌の効果的表現や語句の使い方を学ぶものである。時代は違っても、家族や恋人に対する思いや季節感など、現代に生きる私たちにも共感できる身近なテーマが扱われており、生徒の共感も得やすいのではないと思われる。

### 3 本単元における言語活動の工夫と学習評価の工夫

- 言語活動の工夫について

和歌や俳諧の世界をより深く享受させるために、図書室を利用した調べ活動を行う。歌自体に使われている意味を知るための古語辞典や、和歌の言葉を深く知ることのできる辞典、歴史的背景を探るための時代資料などをあらかじめ図書室の一角にまとめて置いておく。

- 学習評価の工夫について

調べたことを鑑賞文としてプリントに書かせ、班での交流をし終えた後に、短歌・俳諧の良さを自分の言葉でまとめていく。

### 4 単元の目標

#### (1) 単元の目標

- ・ 課題に対して興味を持ち、進んで情報を得たりまとめたりするなど、課題解決に向けた学習内容への理解を深める。【国語への関心・意欲・態度】
- ・ 論理の展開を工夫し、調べた内容を適切に使用し、説得力のある文章を書く。【書く】
- ・ 和歌における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読む。【読む】
- ・ 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむ。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

### 5 指導計画と評価計画（総時数5時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1 古今和歌集「仮名序」を声に出して読むことで、古文の言葉の響きを味わい、古人にとっての「和歌」役割について知る。	○歴史的仮名遣いに印を付けさせ、既習事項を確認させる。 ○繰り返し音読させることで、古文の言葉の響きを感じさせる。 ○現代語訳を確認することで、古	「仮名序」冒頭部分の内容に興味を持ち、進んで音読しようとしている。【関心】 ・古文のリズムを意識しながら音読している。【言】

	人にとっての「和歌」とはなにか考えさせる。	
2 (1) 三大和歌集の基本事項を確認し、十五首を音読する。 (2) 教師のお気に入りや和歌モデル文を聞き、どのような項目が語られているか出し合う。	○三大和歌集の特徴を押さえることで、その後のお気に入りの和歌を選び、調べる際の一つの手がかりとさせる。 ○調べ学習の際、調べることを絞らせるために、教師がモデル文を提示する。	・和歌における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読む。【読む】
3～4 鑑賞文を書くために、図書室にある資料を使い調べ学習を行う。	○スムーズな調べ学習を行うため、事前に関連する資料をテーブルの上においておく。 ○古語単語の意味を理解させるため、古語辞典の使い方を確認させる。	・課題に対して興味を持ち、進んで情報を得たりまとめたりするなど、課題解決に向けた学習内容への理解を深める。【国語への関心・意欲・態度】 ・現代語訳や脚注、出典欄などを基に、歴史的な背景に注意して和歌を読んでいる。【言】
5 調べたことをもとに、モデル文を参考とした鑑賞文を書く。	○2時間目に掲示したモデル文を再度掲示する。 ○すべての生徒が鑑賞文を書けるよう適宜机間指導を行う。	・論理の展開を工夫し、調べた内容を適切に使用し、説得力のある文章を書く。【書く】
6 完成した鑑賞文を小グループで読み合い、和歌・俳諧の奥深さに触れる。	○ほかの生徒の鑑賞文を聞いて、和歌や俳諧に関して、面白いと思ったこと、興味を持ったことを200字程度で書かせる。	・古人の心情や情景を読み取り、和歌に対して自分の考えをもっている。【読】

## 6 本時の学習

- (1) 主眼 鑑賞文を読み合い、和歌の奥深さに気づく。
- (2) 準備 鑑賞文のプリント・
- (3) 展開

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 【観点】 評価規準 (評価方法)
導入	1 前時の振り返り ・自分が書いた鑑賞文を。	○自分が書いた鑑賞文を手元におかせ、どのようなポイントで鑑賞したか振り返らせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて</div> 鑑賞文を班で交流し、和歌や俳諧の良さに気付こう。	
展開	2 授業の流れを確認する。 ① グループで自分が気に入った和	○すべての生徒に本時の流れを理解させるために、授業の流れを黒板に掲示する。

開	<p>歌についての鑑賞文を発表しよう。</p> <p>② 友達の鑑賞文を聞いて、また友達の鑑賞文と比べて和歌に関して興味を思ったことを 200 字程度で書く。</p> <p>3 グループ内で鑑賞文の読み合いをする。 一人当たり 3 分の持ち時間内に発表する。</p> <p>4 グループの内での発表を聞き、和歌や俳句に対して思ったこと感じたことを 200 字程度にまとめる。</p>	<p>○交流会をスムーズに進めさせるために、あらかじめ司会者を決めておく。</p> <p>○鑑賞文の中で気になったことは付箋にまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古人の心情や情景を読み取り，和歌に対して自分の考えをもっている。【読】</li> <li>・ 和歌の表現技法や語句の使い方に気づいて読み，感想を持っている。【読】</li> </ul>
---	---	--